

## 令和2年度浜松市社会福祉審議会

### 第3回高齢者福祉専門分科会会議録

- 1 開催日時 令和2年9月25日（金）午後2時00分から午後3時10分
- 2 開催場所 浜松市役所本館5階 51会議室
- 3 出席状況 委員（10名）  
石川 恵一（浜松市自治会連合会 理事）  
渥美 みつ（浜松市老人クラブ連合会 副会長 女性部浜北地区代表）  
鈴木 雅教（浜松市ボランティア連絡協議会 会長）  
小栗 康義（社会福祉法人浜松市社会福祉協議会 常務理事）  
鈴木 幸子（浜松市民生委員児童委員協議会 理事）  
小杉山 敬（浜松市社会福祉施設協議会 理事）  
藤島 百合子（一般社団法人浜松市医師会 理事）  
松本 礼子（公益社団法人静岡県看護協会 西部地区支部役員）  
酒井 昌子（聖隷クリストファー大学 教授）  
平野 岳子（浜松市議会）
- 事務局（14名）  
高齢者福祉課 渡辺次長兼課長 鈴木担当課長 亀田課長補佐  
鈴木G長 門屋G長 山根G長 坂本G長 宮崎 高橋  
健康医療課 島次長兼課長  
介護保険課 徳田課長、大村課長補佐  
健康増進課 小山課長、平野課長補佐
- 4 傍聴者 0名
- 5 議事内容 (1) はままつ友愛の高齢者プラン（素案）について
- 6 会議録作成者 高齢者福祉課 生きがい・長寿政策グループ 宮崎
- 7 記録の方法 発言者の要点記録  
録音の有無 有・

## 8 会議記録

1 開会

2 会長挨拶

3 議事

(小杉山会長)

議事の公開非公開について、個人情報などの非公開情報を審議する予定はないので公開としたいが、よろしいか。

(異議なし)

(1) はままつ友愛の高齢者プラン(素案)について

(小杉山会長)

(1)のはままつ友愛の高齢者プラン(素案)について、事務局から説明願いたい。

(渡辺健康福祉部次長兼高齢者福祉課長)

資料に基づき説明

(小杉山会長)

事務局から説明されたが、何か意見や質問はあるか。

(小栗委員)

P2「前プランの成果と取組状況」で、目標値よりも実績値が低いところ、また、P5(3)①老人福祉費のR1-H29比較4.5億円減について、どのように分析しどう考えるか。

(渡辺健康福祉部次長兼高齢者福祉課長)

前プラン重点施策1の成果目標「地域包括支援センターの認知度の向上」R1実績値については、目標値は下回っているもののH29実績は上回っており、今後も引き続き取り組んでいく。前プラン重点施策5の成果目標「住民主体サービス実施か所数」については、協議体等で地域の方に主体的に取り組んでいただくものであるため、なかなか実績が見えにくいですが、目標に達していなくても、取り組んでいただくことで支援やサービスにつながっていくと考えている。

(徳田介護保険課長)

前プラン重点施策4の成果目標「資格取得費用の助成人数」について、資格取得にかかる費用は資格により異なり、1件あたりの助成金額が想定よりも高いことが多かったため、事業予算は使い切っているが、人数は目標に達しなかった。今後も実績ベースで予算を確保していく。

(渡辺健康福祉部次長兼高齢者福祉課長)

P5の減額理由については確認する。

(小栗委員)

「ささえあいポイント事業の拡充」について、今回のプランでは簡単に触れられている程度。実態調査結果報告書P124では、「ささえあいポイント事業」で行ってみたいボランティア活動について、25%が「わからない」、34%が「活動しない」としており、これはかなりの率である。高齢者の社会参加、介護予防の向上を図るためにも、ささえあいポイント事業はさらに進めていく必要がある。今回のプランでも力を入れていくというところを強調してほしい。

教育との連携について、重点施策3「認知症施策の総合的推進」のために、2040年に高齢者を支える世代である小中高生に対して、認知症の理解を求め、P40⑥にある認知症サポーターになってもらうということも一つの方法かと思う。現在行っている子供会や小中高生に対する認知症サポーター養成講座の開催実績はいかがか。

(渡辺健康福祉部次長兼高齢者福祉課長)

教育委員会に依頼し、かなりの小中学校において、取り組んでいる。

(小栗委員)

核家族化が進む中で、認知症の人と触れ合う場を設け理解を深めていく教育も大切である。

福祉人材の確保について、若い世代に介護現場の実情を知ってもらうとともに、将来、介護現場を働く場として選んでもらえるようにすることも必要である。P32「介護人材の確保等に関するアンケート調査結果」では、市に期待する対策として「若者への介護職イメージアップや周知」が上位にある。若い世代への周知に関する取り組みをプランに入れてほしい。

(鈴木幸子委員)

プランの内容が浜松市ではなく他の市町にも当てはまることばかりなので、浜松市らしさを入れた方がいい。

地域包括支援センターの認知度が低い、どのように上げていこうと考えているのか。地域包括支援センターは人数が少なく何かあると事務所に誰もいなくなってしまう。待遇を見直してほしい。

ロコモーショントレーニングについて、行政が考えるものと実態とにズレが生じている。事業開始から5年が経過し見直す時期だと思う。

(石川委員)

「やらまいか型人生年齢区分」について、どのように周知しているのか。

(渡辺健康福祉部次長兼高齢者福祉課長)

パンフレットに掲載したりしているが周知は不足しており、今後も引き続き取り組んでいきたい。

(酒井職務代理者)

重点施策6「地域共生社会の実現に向けた事業の推進」について、2040年を見据えて70代の元気な高齢者を参画させるという方向性はあるが、具体的な戦略がない。人口構造も変化していく中で、高齢者同士が支え合うことになる。高齢者

を支える次の次の世代に参画を働きかける必要がある。

(平野委員)

健康寿命ナンバー1をもっと生かしてほしい。健康な高齢者から介護や医療を必要とする方へ段階的に利用できるものを、分かりやすく示してほしい。

P10のグラフが前回と比べて省略されている。介護保険制度がスタートしたH12からのグラフにしてほしい。要支援の小計を省略したのはなぜか。認定率は全国平均、県平均を示してほしい。認定率は1号被保険者、2号被保険者をあわせた数か。1号被保険者の中でも74歳までの前期高齢者と75歳からの後期高齢者とは分けて分析すべき。

地域包括支援センターについて、窓口として中核的な役割を担っているにも関わらず、P48の計画では設置数を増やす予定がないのはなぜか。また、P22には地図だけでなく、地域包括支援センターの役割や、浜松市として機能強化していくための説明、窓口やシステムに関する図を入れた方がいい。

P24、25のロコモーショントレーニングと浜松いきいき体操は混同しやすい。

P32「サービス人材確保・育成」について、確保と育成の間に「定着」を入れるべき。離職という問題は大きくP33(5)には離職防止に関する記載があるし、事業者支援にもつながることである。

(徳田介護保険課長)

グラフについては見やすさを重視したが、できる限り調整したい。H12から記載することについては検討する。認定率については、表上の※で説明しているが、分かりにくいので記載位置を検討する。全国、県の平均値については、将来見込数を含め確認できる範囲で記載できるよう検討する。

(渡辺健康福祉部次長兼高齢者福祉課長)

年齢区分別の数値についてはP11に記載した。

(鈴木幸子委員)

元気な高齢者が多いので老人クラブへの助成もあったほうがいい。

(渥美委員)

老人クラブも高齢化し、元気だが認知度や筋力が低下し、クラブ員でも活動に参加しない人が増えている。コロナ終息後の社会情勢の変化や三密対策も考慮し今後の活動方法を考えているところである。市からも老人クラブへ向けた方策を示してほしい。

(鈴木幸子委員)

民生委員は元気な高齢者、家族がいる高齢者と関わるのが少ない。老人クラブではそういう方々のお互いの見守りができる。

(渡辺健康福祉部次長兼高齢者福祉課長)

地域包括支援センターについて、設置数を増やすのではなく、条例に定めるとおり高齢者人口にあわせて人員を確保していく。役割等の記載については調整す

る。ロコモーショントレーニングと浜松いきいき体操についても、違いが分かるよう記載方法を検討する。

(鈴木雅教委員)

73歳という自分の年齢では、このプランは架空の話のように感じる。敬老会等事業の対象者の年齢はどんどん上がっている。生産人口が少なくなっていく中で、高齢者を支える人数を増やすことはできるのか。子どもを増やすほうが先ではないか。元気な高齢者にもピンとくるように、もっと分かりやすい内容で市民に浸透させて、高齢者が生きがいを持ち将来のことを考えられるような内容にしてほしい。

(小杉山会長)

ページ数の多さは課題の多さの表れだと思う。ポイントをしばって対応する必要がある。

P14「特別養護老人ホームの整備床数」について、R2が36床マイナスになっているが、これはP46重点施策4「介護サービスの充実・質の向上」新規整備床数に変わったのか。

(渡辺健康福祉部次長兼高齢者福祉課長)

連動はしていない。

(小杉山会長)

特養の部屋がなくなるということか。

(渡辺健康福祉部次長兼高齢者福祉課長)

さくまの里において36床以上機能していなかったため、それを廃止したもの。

(小杉山会長)

それなりの公費がかかって作られている施設なので、職員不足ということはあれ、マイナスなのはどうしてかなと感じた。

(松本委員)

P27「ACPの普及啓発」について、コロナの影響で啓発活動が延びているが、来年度からの3年間、どのような形で普及啓発、評価を行うのか。

(渡辺健康福祉部次長兼高齢者福祉課長)

昨年12月に人生会議手帳を作り、地域包括支援センターや各自治会に配布を依頼するとともに、専門職向けの研修会を開催した。また、市民向けの講演会を医師会開催というかたちで、今年度、来年度も実施していく。

(松本委員)

評価は、誰でもACPという言葉が分かるということなのか。最終的な目的はご自身の最終期を考えてもらうということだと思う。

(渡辺健康福祉部次長兼高齢者福祉課長)

今回の実態調査から「人生の最終段階の時期に受ける医療ケアに関する希望を、

家族等と話したことがありますか？」という質問を入れた。言葉を知る、知らないよりも、家族と話す人数が増えることが大切だと考える。

(小杉山会長)

それぞれの立場からの貴重なご意見をいただいた。

以上で議事を終了する。

4 連絡事項

5 閉会